

Course number		G-LAS14 80002 LJ44									
Course title (and course title in English)		ビジネスエシックス Business Ethics			Instructor's name, job title, and department of affiliation		Graduate School of Management Professor,TOKUGA YOSHIHIRO Graduate School of Management Specially Appointed Professor,HIKINO TAKASHI				
Group		Interdisciplinary Graduate Courses		Field(Classification)		Career Development					
Language of instruction		Japanese			Old group				Number of credits		2
Number of weekly time blocks		1	Class style		Lecture (Face-to-face course)			Year/semesters		2024・Second semester	
Days and periods		Wed.3		Target year		Graduate students		Eligible students		For all majors	
(Students of Graduate School of Management, Graduate School of Economics cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department.)											
[Overview and purpose of the course]											
<p>現代経済における企業への社会的要請の重要な焦点として、高いモラルを維持する経営行動が、企業全体についてだけでなく、個別の役員と従業員についても求められている。この企業活動の倫理性という問題は、そもそも道徳哲学を講じていたアダム・スミスが経済学を確立し、『論語と算盤』が「日本資本主義の父」と称される渋澤栄一によって著されたように、近代の経済社会をつうじて重要な課題として広く認識されてきたものである。しかし、現代社会における企業行動の現実を概観すれば、21世紀初頭のアメリカにおける「エンロン事件」に代表されるスキャンダルや、近年の日本において頻発する企業が引き起こす違法行為に見られるように、この課題が依然として解決が来ていないことが明白となる。</p> <p>この講義では、このような企業行動の倫理性の一般的課題を、まず研究者がどのように体系的に把握しているのかという理論的なアプローチを主に講義コーディネーターが概説し、そのうえでこの課題が現実にもどのように取り組まれているかを実際の日本の企業において実践されている実務家の方々に解説していただく。取り上げる企業は、産業企業、金融機関、投資ファンド、会計監査法人等の広い範囲とすることによって、「ビジネスエシックス」、「コンプライアンス」、「コーポレートガバナンス」および「CSR」といった広義の倫理性の課題について、異なる業界と個別の企業によって多様な立場と実態があることを受講生に伝えたい。</p> <p>このような研究者と実務家両方による平易な解説を通じて、大学院における専門分野には関係なく、受講生が将来従業員として、技術者として、そして役員として、モラルに満ちた行動を個人として取るだけでなく、関係する事業体全体が倫理的な経営行動を維持するについて、先導的役割を担う際の一助となることを、この授業の最終目的とする。</p>											
[Course objectives]											
<p>「ビジネスエシックス」、「コンプライアンス」、「コーポレートガバナンス」および「CSR」といった広義の企業行動の倫理性の課題が、特に日本の企業あるいは他の事業体においてどのように取り組まれてきたか、どのような現状なのか、そしてどのような課題に直面しているのかについて、受講生が体系的、実践的に理解することによって、将来自らが経済行動において直面するモラルディレンマを解決する思考手段を学習することを到達目標とする。授業ごとに課す小レポートと最終試験とによって、個別のトピックと全体としてのビジネスエシックスの体系的な理解を自ら試す機会が与えられる。</p>											
[Course schedule and contents])											
第1回 10月5日講義「ビジネスエシックスへの導入」徳賀・曳野											
第2回 12月 ビジネスエシックスと企業統治徳賀・曳野											

Continue to ビジネスエシックス(2)											

ビジネスエシックス(2)

第3回 19日 資本市場を巡るビジネスエシックス 幸田 博人
第4回 26日 ビジネスエシックス、ガバナンス、そしてCSR 徳賀・曳野
第5回 11月2日 企業の倫理と社会の持続的発展 高 巖
第6回 9日 コーポレートガバナンスと内部監査 蟹江 章
第7回 16日 企業統治の現実： ENRON事件とは何だったのか？ 曳野 孝
第8回 11月30日 キャノンの内部統制システム 柳橋 勝人
第9回 12月7日 企業倫理と企業統治の現代的課題 徳賀・曳野
第10回 14日 三菱重工の企業統治とコンプライアンス 井上 卓
第11回 21日 会計不正と会計専門職の職業倫理 吉見 宏
第12回 28日 会計監査と業務監査： 現場の立場から 石田 昭
第13回 1月11日 「キリンググループの戦略・組織について」 百武 直樹
第14回 18日 会計・IR・コーポレートガバナンス・監査の領域での個人的体験 八木 和則
第15回 25日 ビジネスエシックスの現代的課題 徳賀・曳野

[Course requirements]

特に具体的な履修要件は課さないが、現実の企業と社会との関係についての旺盛な関心を求める。

[Evaluation methods and policy]

講義内容についてのレポート（講義ごとに、A4で1枚程度のもの）を授業直後に提出（50％）；
最終試験の成績（50％）

[Textbooks]

特に特定の教科書は用いない。必要な資料は、すべてコピーをして教室で受講生に配布する。

[References, etc.]

（References, etc.）

参考図書は、各講義において紹介する。

[Study outside of class (preparation and review)]

授業で取り上げるテーマとなるトピック、国、業界、企業について、予習、復習をすること。

[Other information (office hours, etc.)]

企業行動と倫理的規範に関心のある学生であれば、所属研究科は問わない。また、各授業の終了後にオフィス・アワーを設ける（その他の時間帯についてはメールで問い合わせること）。